

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 70 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 70 回 : 2016 年 9 月 1 日 (木) 13:30~17:00

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 第 4 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 牟田, 岡野, 石田, 岩谷, 喜多, 菅原,
小谷, 日高, 黒岩, 谷口, 小森 (14 名)

(常時参加者) 濱口, 福井, 根岸, 島崎 (4 名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-70-1 第 69 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-70-2 人事について

P4SC-70-3 第 39 回リスク専門部会等の概要

P4SC-70-4-1 停止時 PRA 標準改定案

P4SC-70-4-2 停止時 PRA 標準改定に係るコメントへの対応

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 14 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 69 回議事録の確認

資料 P4SC-70-1 を用いて第 69 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料 P4SC-70-2 により, 常時参加者の異動に関する報告・審議を行った。

報告: 東山常時参加者と藤田常時参加者の登録解除。

審議: 佐竹氏 (東北電力) の常時参加者登録が了承された。

(4) 第 39 回リスク専門部会等について

資料 P4SC-70-3 により、第 39 回リスク専門部会などの動向について報告があった。PRA 標準のあり方、構成にかかる今後の進め方において、レベル 1PRA 標準：2013 を例に標準の性能規定化・体系化の検討依頼が部会から出されており、今後対応していくこととなった。

性能規定化・体系化において、高いレベルの要求事項（HLR）は、ASME/ANS 標準との関係性にも留意していくことが必要との議論があった。また、必要により標準委員会など上位委員会の理解・推進も必要との議論があった。

(5) 停止時 PRA 標準改定案の読合せ

資料 P4SC-70-4-1, P4SC-70-4-2 を用いて、停止時 PRA 標準改定案の読み合せ検討を行った。前回分科会でのコメント対応と附属書検討について報告があり、次のコメントがあった。

- ・ 3.2 タスクの定義において、「機能的に」とすることの可否を THERP での定義などを参考に検討する。
- ・ 図 1 の凡例において、「各実施項目への入力」は図 1 の修正により内容不一致となっているため、「実施項目の出力と関連項目への入力」などに修正する。
- ・ 附属書 A.12 の a) から d) において、「・・・は、・・・が・・・となる。」との文体になっており、主語が不明確のため表現を検討する。
- ・ 箇条書きの段落記号のフォント・書式を統一すること。規定内に記載のレベル 1 での「1」は全角・半角何れが適切か確認すること。

また、表 2 中などでの「インベントリ（水位）」の意味合いを議論し、評価ではインベントリを使うが、現場では水位などがインベントリを確認するための指標となっていることから、表現振りは現状のままとすることになった。

改定案の箇条 7 から箇条 8 までの読合せを行い、以下の議論があった。

7 起因事象の選定及び発生頻度の推定

共通の記載振りとして、附属書〇〇（参考）、附属書〇〇.〇（参考）を確認する。

7.2.1 において、「以上の方法を用いて」を削除し、第 2 段落を「また、・・・」として前段につなげる。

7.3.2 文中のフォントを確認する。

8 成功基準の設定

8.2.1 用語の定義の引用書式を箇条 2 に合わせる。

8.2.3 b) 「余裕時間」の表記を確認する。

8.2.3 の最後の「例として、・・・」の文章の扱い（実施可能な方策の一つとして修文／附属書化／削除）について検討する。

8.3.1 a) 「情報交換」を「聞き取り」に訂正する。

8.3.1 b) 「待機又は待機除外状態」を「状態（運転，待機又は保守点検の各状態）」に訂正する。

(6) スケジュール，その他

次回分科会は10月17日PMの予定，次々回は11月14日PMの予定とする。

以上